



片山知事（左）をコーディネーターに「住み続けたいまちづくり」と題したパネルディスカッション＝28日、米子コンベンションセンター

災害に強いまちへ意欲

県西部地震2周年県民大会

米子

「鳥取県西部地震2周年県民大会」が二十八日、JR米子駅前の米子コンベンションセンターで開かれ、基調講演やパネルディスカッションで、災害に強いまちづくりについて語り合った。

大会は昨年に続き県が主催。約六百五十人が出席し、片山善博鳥取県知事が「二年が過ぎようとしている中、いつまでも忘れず、災害を教訓として、地域の安全を考えるようにしたい」とあいさつした。

基調講演として、阪神淡路大震災を教訓に神戸

大学都市安全研究センターの室崎益輝教授が「被災体験を生かしたまちづくり」と題して「最大の教訓はみんなで助け合ったこと。日常の問題として、元気で豊かでないまちを自分たちでつくれれば、結果的に防災へもつながる」と話した。

「住み続けたいまちづくり」をテーマとしたパネルディスカッションには、五人のパネリストが出席。二〇〇〇年三月の有珠山噴火で被害に遭った北海道虻田町の長崎良夫町長が「災害では住民をいかに早く的確に避難

させるかに尽きる。素早く決断することが重要だ」と陣頭指揮をとった経験を話した。

県西部地震の被災地を代表して鳥取県日南町の矢田治美町長が「将来の町への人材養成を目指し、町民の安否確認のシステムづくりや情報網の整備に取り組みたい」と防災に強いまちづくりを目指す抱負を語り、日野ボランティアネットワークの山下弘彦さんが「各家庭の情報把握して、大事にすることが必要。お年寄りが見守られていると感じる町づくりを」と高齢化が進む中山間地での新しいまちづくりを提言した。

同会場では二十九日も引き続き、県西部地震被災パネル展を開催している。

「仮設住宅 寂しくなかつた」

鳥取県西部地震の発生から二年がたち、日野町黒坂の黒坂小学校校庭に設置されている仮設住宅の入居者は、独り暮らしの古川鶴子さん（まだけ）となった。「大勢の人たちから声を掛けてもらい、寂しくなかつた」と二年間を振り返る。

古川さんは、仮設住宅から約五百メートル離れた同町中菅で被災、家が傾き住めなくなった。大阪や米子で暮らす息子や娘から「一緒に住もう」と誘われたが、「遠くに行くと墓や仏壇を守れなくなる。息子が数年後に帰ってくるなら」と、日野町にとどまるため仮設住宅に入る決心をした。

仮設住宅には愛犬のマルチーズ「ナナ」と同居

最後の1人となった 日野の古川さん



新しい生活を心待ちに愛犬ナナと暮らす古川さん＝日野町黒坂

大勢の人が声掛ける

撤去迫り新しい生活待望

し、畑仕事をしながら居していた黒坂の仮設住宅から目を追うこと。日々を送る。十六戸が入居も、震災後一年を過ぎに入居者が少なくなつた。しかし、仮設住宅を出

ていった人から毎日のように「寂しくないか」と電話があり、買い物や畑に行くこと「元気か」と声を掛けられる。「この二年間、寂しいとは思わなかったけど、いよいよ一番後になったなあ、という思いが強い」と古川さん。

町によると、仮設住宅は町内四カ所に合計四棟二十八戸を建設したが、入居者がいなくなつたところから随時撤去。今月二十五日が入居期限となっており、年末にかけて施設は撤去される予定。古川さんは現在建設中の町営住宅に入居を希望している。

仮設住宅に別れを告げる日が近づき「ボランティアの人には花やもちを持ってきてもらった」と記憶もよみがえるが、「ここでは何か落ち着かず、早く出たい気持ち強い」と新しい生活を心待ちにしている。

3年2カ月ぶり県道復旧

二〇〇〇年十月六日の鳥取県西部地震で不通になっていた鳥取県日野町久住地区の生活道路・県道菅沢日野線の復旧工事が終わり、五日、現地で開通式があった。同地震の最大被災地・日野町は十一月三十日、県道復旧を見越し復興宣言式典をしており、三年二カ月ぶりの県道復旧により、町が地震前の姿に戻った。



復旧工事箇所を視察する片山善博知事（左から三人目）ら関係者
 〓鳥取県日野町久住の県道菅沢日野線

鳥取県西部地震で不通・菅沢日野線(日野)

う回の不便解消 久住地区民喜び

県道は標高五〇〇以上にあり、十八戸六十四人が暮らす久住地区と町部の黒坂地区を最短で結ぶ。地震で一・四が土砂崩れなどを起こし、久住―黒坂間三・五が不通になった。それまで車で五分余りだったのが、地震後は国道や林道を大きく回すしかなかった。道路脇が国有林のため、県と鳥取森林管理署が合同で、今春の開通を目指し工事を進めたが、路盤がもろく新たに斜面や路肩の崩壊があり完成が遅れた。一部区間は災害復旧に合わせて拡幅、カーブの線形を緩やかにした。事業費は十二億七千万円。

住民など約五十人が出席した式で、片山善博知事が「久住の皆さんは長い間、難儀をされたが、

不自由で、慣れ親しんだ県道の復旧が待ち遠しかった」と開通を喜んだ。

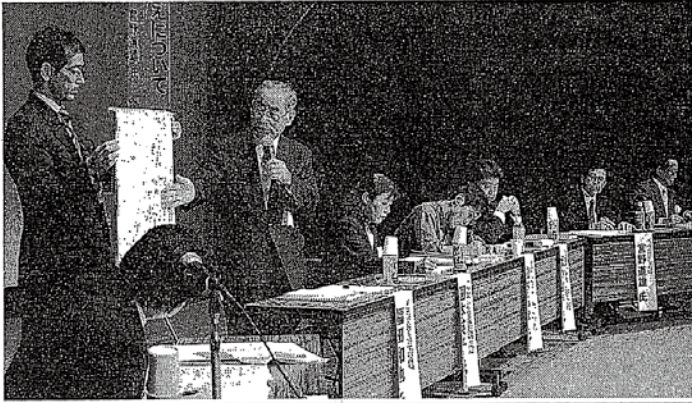
経験忘れず、皆で共有

日野で地震フォーラム

地域で減災努力を

反省や得たものの再確認

県西部地震で深刻な被害を受けた日野町で六日、「県西部地震から五年フォーラム」（県、日野町主催）が開かれた。震災で得た教訓の再確認を通じて、地域における防災力の向上を図るねらい。地元住民らが震災時の体験を語りながら地域防災の重要性を指摘し、参加者は五年目から始まる震災後の新たな日々に向けて、意を強めた。



震災時の状況を紹介するパネリストら＝六日、日野町根雨の町文化センター

大阪市立大学の宮野道一氏について「地域防災と雄教授が「減災への心構え」をテーマとして

て基調講演したほか「地震災害に備えるために」みんなを救えるのはあなたをテーマとする座談会が主な内容。約二百五十人が参加した。座談会のコーディネーターを務めた片山善博知事

自主防災

県内組織率5割強

設置進まず全国下回る

鳥取県西部地震から五年たつが、県内では災害時に初動対策を担う自主防災組織の立ち遅れが目立っている。都市化による地域の連帯感の低下、過疎化による人材や資金の不足など問題は多いが、防災に関する専門知識を持つ防災士の活用など、地域防災力の向上には工夫の余地があると指摘も多い。

県内には今年四月現在で約二千の自主防災組織があるが、世帯数から見た組織率は55.6％。四月現在（一〇〇三年）を下回っている。一九九五年の阪神大震災後一時急増したが、その後は横ばい傾向。さらに数字では表れない組織の形骸（けい）化も指摘される。これについて、県の衣

笠克則防災監は「モデルとなるような地区も増えており、これからの波及が期待できる」と語る。県西部地震が発生した六日を目指して、境港市では竹内町自治会（湯中義人会長）が自主防災部を結成するなど、地震をきっかけに住民自らの活動も広がっている。しかし、震源地に近い米子、境港市の組

リストが出席。このうち、同町黒坂地区自主防災委員会の福田和也会長は「は、地震前から盛んだったまちづくり活動が被災時に奏功した例を引いて「高齢化率が四割を超え、中高齢者が多いが、地域活動で培った横の連携が役立つ」と強調した。

南部町社会福祉協議会の国本英子さんは「被災当初に住民がボランティア活動を速行したり、警戒した実例を語り「ボランティアの支援を受け入れる住民啓発も不可欠」と提言した。基調講演では宮野教授が「倒壊家屋などから生存救出される可能性が高いのは発生後三日間。発生直後では地域住民による救出が奏功する」として、地域防災システム構築の必要性を説いた。

ない防災意識の向上が今後課題となるが、その中心的役割を担う存在として防災士が注目される。阪神大震災を契機に設けられた資格で、これまでに全国で約七千人が取得した。県内にも特定郵便局長らを中心に約百八人の救急救命など専門知識を学んでおり、鳥取本町郵便局の黒田敏博局長は「災害時は、住民だけでなく、ただのことができないが問われる。われわれの力を活用してほしい」とアピールしている。

検証 県西部地震

第1部 ①

県西部地震から19日で2週間を迎える。ピーク時に約7000人に達した避難所の被災者数は、18日朝には初めて1000人を割り83人になった。被災地では復興への動きが着実に進む一方、市民生活や経済活動に深刻な影響が尾を引いている。県内に衝撃を与えた大地震の実相や被災者の生活再建への課題などに、さまざまな角度から迫りたい。第1部では、大きなつめ跡を残した被害の実態、その後の影響を検証する。

◆県外に届かぬ「無事」

「10、11月が一番の書き入れ時。しかも今年が開湯100周年なのに…」

年間約150万人が訪れる米子市の皆生温泉は、開湯100年祭のメインとなる記念式、温泉祭りの8、9日の直前に地震に襲われた。最悪のタイムゾーンの天災に、皆生温泉旅館組合（20旅館）の奥谷裕之専務理事は、やるせない表情を見せる。

観光被害

米子市は

「開店休業状態だ」と困

元気にPRに躍起

キャンセル相次ぐ温泉街

感を隠さない。

旅館組合の集計では、地震から4日目の9日までのキャンセル数は約8500人。被害額は約1億5000万円に上ったという。

「開店休業状態だ」と困

をアピールしているが、なかなか県外には伝わらない。

奥谷専務は「まだまだキャンセルは続きそう」と渋い表情だ。

◆「被災地元気なら行く」中部を代表する温泉地、三朝温泉では、風評被害が広がっている。

「旅館大橋」では地震から10日たった16日にも30件のキャンセルが入ったという。旅館大橋のお

被害のなかったことを訴える必要があるかもしれない。

JTB西日本営業本部（大阪市）によると、地震発生当日から1週間で、近畿、中国、四国の各支店への鳥取方面の旅行キャンセルは約600人に上った。対象は被害

が大きく、東部や中部へは旅行にも及び、ツアー開催最低限の参加人数を下

回って中止になった企画旅行は12件に達した。

同本部の高崎邦子広報課長は、特に阪神間では、5年前の大震災を経験した人が多く、余震への恐れが大きかったように

「被災地が元気になったら是非行きたい」という声も多いです」と話す。

◆被災少女の笑顔でPR

「地震の前と同じように、たくさんの方に鳥取

「被災地が元気になったら是非行きたい」という声も多いです」と話す。



キャンセルが相次ぐ皆生温泉街

県外へお越しいただきたい」「それが私たちに何として何よりの励みです」

観光地、温泉、旅館から寄せられる悲痛な叫びに心えて県は、地震にもめげずに笑顔いっぱい、被災地の少女の写真を入れたチラシを作り、18日から3日間の日程で米子市で始まった部落解放研究第34回全国集会の参加者約1万人に配布した。

集会期間中は市内の旅館、ホテルはほぼ満杯だがその後のあてはない。集会参加者に全国に持

ち帰ってもらおうチラシでは、交通機関の復旧、旅館、ホテルの通常営業を強調し、「鳥取県民は『元

秋の行楽シーズンもいよいよ本番。観光客を取り戻すための取り組みがこれから本格的に始まる。

【松本 健男】

検証 鳥取県西部地震

第1部 ②

◆液状化で「泥の海」
 「津波が来るかも知れないので、出来るだけ速く逃げてください」
 震度6強の激しい揺れに見舞われた境港市の竹内工業団地。地ビールレストラン「境港ビアガッセ」の室崎栄一店長(45)は6日午後1時半の地震発生直後、お客さんに大きな声で呼びかけた。埋め立て地にある団地は、津波がくればひとたまりもなからう。地震当時、幸い昼食のピークは過ぎており、大きな混乱はなかった。従業員らも自宅に帰した後、周りを見て初めて液状化に気づいた。泥は見る間にあふれ出し、一時は厚さ30センチにまでなったという。鳥取県西部地震で、液状化現象による被害が最も大きかった竹内工業団地。

境港・竹内団地

魚介類の加工品を製造している「小林魚類」(小林政夫社長)。工場自体の被害は軽かったが、排水処理を十分に行えないため、工場の稼働率を落としてざるを得ない状況が

進出企業の8割が被害

応急処置で操業続ける

鳥取県が1974年から90年までに約250億円を投じ、128社の海を埋め立てた大事業だが、大地震では埋め立て地のもろさを露呈した。

◆遅れの回復に懸念
 団地で最も大きな被害が出たのは、ガスや上下水道など地下の配管だった。精密機械を導入している工場ではさらに影響は大きかった。「カワバタ

印刷」(川端広社長)は、床面に段差などが生じ、今の場所での操業が出来なくなったため、市内の仮設工場での操業を16日から始めた。「取り引きも続けないといけないし、従業員を遊ばせておく訳にはいかない」と仕事の遅れを取り戻すのに

懸命だ。鳥取県は86年から工業団地の売り出しを始めた。63社が進出している。しかし、不況の影響などで実際に操業しているのは40社程度だ。境港商工会議所によると、団地内の会員36社の8割以上が

「誘致した責任がある」「こんなに被害が出る」と思わなかった。地震発生から2週間。団地の関係者からは、県に対する不満やいら立ちの声も聞かれ、「今後、団地に進出する企業はなくなる」と心配する意見もある。

しかし、企業からは他人の助けを待っている時間はなく、まずは自らの力で復興に努めるしかない。責任問題や金銭的なことは後からでも何とかする」と力強い言葉も出始めている。



現在でも被害のつめ跡が残る竹内工業団地

【阿部 雄介】

検証 本 県西部地震

第1部 ③

◆大漁から4日で暗転
1992年から5年連続で水揚げ日本一を記録した漁業基地・境港。しかし、主力のマイワシの不漁が続く、昨年は全国6位でピーク時の4分の1と低迷した。そうしながら、今月2日の水揚げが2000トを超え、大漁旗が半年ぶりに市役所に掲げられた。

境港に活気が戻り、「大漁が続いてくれれば」と関係者が期待をかけたから、わずか4日後の大地震だった。

通称カニ岸壁と呼ばれる「3号岸壁」が隆起

漁業基地・境港

県漁港課によると、他の岸壁も含めた港湾施設の被害だけで約8億円に上る。現在、地盤への影響を調べるボーリング調査が進められているが、県水産事務所の本山達雄所長は「完全復旧に1年はかかるだろう」と話す。

◆ベニズワイを直撃
全国シェアの7〜8割

しかし、地震は水産加工施設へも広がって

◆深刻な施設被害
境港水産振興協会(会

県水産課の18日現在の

かし、ベニズワイに限る

【松本 健男】

カニ漁解禁へ暮る不安

自主規制の水産業者 岸壁復旧に期待

り、せっかく水揚げしても、加工が追いつかない状態だ。鳥取、島根両県でつくる「かにかご漁業組合」は、所属漁船を水揚げ後すべに出漁させず、入港日を含めて4日間を休漁する自主規制を続けている。

県漁連境支所の池淵秋雄支所長は「カニを持ち帰っても、加工場の生産能力は60%まで落ちてい

被書まごめでは、境漁港の卸売市場、水産加工や冷凍冷蔵施設、水産加工品などの被害は11億円を超えた。

米村専務は「今は復旧のために人手が必要な時だが、落ち着いてから従業員の雇用に影響が出るようなことがあっては絶対ならない」と国や県の万全の対策に期待をかける。

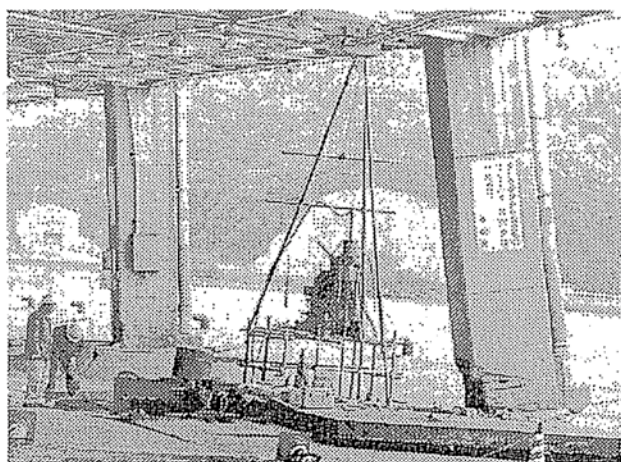
境漁港の水揚げ速報によると、大漁旗が舞った2日の水揚げ量は2135ト。主力のまき網はほぼ通常の漁に戻っており、17日には1680トの水揚げを記録した。しかし、ベニズワイに限る

境漁港の水揚げ速報によると、大漁旗が舞った2日の水揚げ量は2135ト。主力のまき網はほぼ通常の漁に戻っており、17日には1680トの水揚げを記録した。しかし、ベニズワイに限る

境漁港の水揚げ速報によると、大漁旗が舞った2日の水揚げ量は2135ト。主力のまき網はほぼ通常の漁に戻っており、17日には1680トの水揚げを記録した。しかし、ベニズワイに限る

境漁港の水揚げ速報によると、大漁旗が舞った2日の水揚げ量は2135ト。主力のまき網はほぼ通常の漁に戻っており、17日には1680トの水揚げを記録した。しかし、ベニズワイに限る

境漁港の水揚げ速報によると、大漁旗が舞った2日の水揚げ量は2135ト。主力のまき網はほぼ通常の漁に戻っており、17日には1680トの水揚げを記録した。しかし、ベニズワイに限る



復旧には相当時間がかかりそうなる3号岸壁

検証 鳥取県西部地震

第1部④



陥没した畑。不安の中でニンシンの間引き作業が進む

◆一面の液状化現象
 「畑が大変なことになる
 っているらしいぞ」
 米子市彦名新田の彦名
 干拓地でタバコを作る男
 性(49)「同市彦名」は地
 震発生直後、近所の人の
 言葉に胸騒ぎしながら自
 分の畑に行ってみると、
 液状化現象で大きな水た
 まりのようだった。タバ
 コの裏作として植えたニ
 ンシンの苗の葉が点々と
 水から顔を出していた。

干拓地被害

「全滅だ」。ただ
 ぼう然と立ち
 すくみ、畑を
 見やるだけだ
 った。
 彦名干拓地
 への入植開始
 は1992
 年。大規模な
 集約農地で作
 業効率が上が
 る「21世紀の
 農地」として、
 県農業開発公
 社が売り出し

た。
 「前から持っていた土
 地は、住宅地に近くて思
 うように土壌消毒ができ
 なかった。干拓地につい
 てみようと思っただけ」
 この男性は、先祖代々
 受け継いだ自宅近くの畑

で、約2億円の作物その
 もの被害を大きく上回
 っている。
 液状化で海水が噴き出
 したことなどによる塩害
 は、目には見えない被害
 だけに農家を悩ませる。
 干拓地の主産品のタバ

「妻の農地に不安が広がる」

主産品の 来春には塩分除去へ タバコ

を休ませ、3年前に干拓
 地でタバコ栽培に取り組
 むことを決めた。しかし、
 21世紀を目前に、「妻の
 農地」は思わぬ大地震に
 襲われた。

◆目に見えない塩害
 県耕地課によると、彦
 名と「浜(境港市)西干
 拓地の農地や水路などの
 施設被害は計約17億円

コは、葉に含まれる塩分
 濃度に厳しい基準があ
 る。塩分が多いと有毒物
 質が発生し、商品になら
 ない。
 県農林水産部経営指導

課によると、塩害を防ぐ
 ためには、50mmの降雨に
 相当する量の水をまき、
 塩分を地中深くに流し込
 む必要があるという。同

課はスプリングローによ
 る散水などで、タバコ栽
 培が始まる来春4月まで
 には、塩分の大半を除去
 できると見込んでいる。

◆暗きよのシレンマ
 干拓地には、排水のた
 めの水路(暗きよ)が地
 下80〜90cmに埋設され
 ている。県水干拓地方農林振
 興局地域整備課による

◆目に見えない塩害
 県耕地課によると、彦
 名と「浜(境港市)西干
 拓地の農地や水路などの
 施設被害は計約17億円

課によると、塩害を防ぐ
 ためには、50mmの降雨に
 相当する量の水をまき、
 塩分を地中深くに流し込
 む必要があるという。同

課はスプリングローによ
 る散水などで、タバコ栽
 培が始まる来春4月まで
 には、塩分の大半を除去
 できると見込んでいる。

◆暗きよのシレンマ
 干拓地には、排水のた
 めの水路(暗きよ)が地
 下80〜90cmに埋設され
 ている。県水干拓地方農林振
 興局地域整備課による

◆目に見えない塩害
 県耕地課によると、彦
 名と「浜(境港市)西干
 拓地の農地や水路などの
 施設被害は計約17億円

◆暗きよのシレンマ
 干拓地には、排水のた
 めの水路(暗きよ)が地
 下80〜90cmに埋設され
 ている。県水干拓地方農林振
 興局地域整備課による

「借金を返しながら生
 活費を稼ぐのがどれだけ
 大変か……。みんなきり
 ぎりやっている。これ
 で作物が出来なかった
 ら、家がつぶれる。まし
 て農家の自己負担になれ
 ば……」
 米子市内のホテルで16
 日、農、漁業関係団体が
 谷洋一農相に直接支援を
 要請する会合が開かれ
 た。三島管農組台長は「へ
 ドロを埋めたくて作った
 欠陥農地だ。造成した国
 に責任はないのか」と農
 家全体の気持ちを代弁し
 た。

「土の中のニンシンが
 うまく育ってくれるか…
 …。見えないだけに不安。
 でも、先が見えないこと
 が一番不安だよ」
 ニンシンの間引き作業
 をしていた男性のつぶや
 きが心に響いた。
 【青木 勝彦】
 (第一部おわり)